

再開発、槌音高く

県都静岡市の都心部で、大きな再開発事業が進行している。県庁や市役所に近く、伊勢丹百貨店に隣接した繁華街で昨年12月から建

設工事が始まった静岡呉服町第二地区市街地再開発事業で、2018年6月まで続くという。

市街地再開発を進める同

市市街地整備課や同再開発



市街地再開発——県庁や市役所のすぐ近くで工事が進む。静岡市、全日写真吉川正宏さん撮影

組合によると、約2700平方メートルの敷地に地下1階地上13階のビルが建つ。その1、2階は店舗・駐車場、3〜5階は駐車場、6、7階に多目的ホールなど、8〜13階は高齢者施設に充てられる。

総事業費約82億円で、うち約18億円が国と静岡市の補助金という。完成後は、北側隣地に2014年3月完成した第一地区市街地再開発ビルと並んで、都心商店街の風景を一変させるだろう。

市庁舎周辺は、その都市の顔だ。静岡市は第3次総合計画で「目指す都市像」として「歴史文化のまち」の実現を目指している。その長期ビジョンの中で市街地再開発事業は商業地の中核機能を高め、市中心部ににぎわいの場を創り出す効果が期待されている。それは総合計画が目指す都市像の重要なパーツとなるが、一方で「歴史」が消えていく。静岡市都心部ではさらに4地区で同種の計画が進められているが、どこかで静岡市が最終的に目指している「歴史文化の町」との調和が求められるだろう。

県内屈指の繁華街で始まった市街地再開発事業の現場では、大型クレーンによる杭打ちやブルドーザーの作業音がビルの谷間に響いている。早春の日差しの中、建設の槌音は日増しに高まる。県都の地下の生き物にとっては、なんとも騒々しい今年の「啓蟄」である。

(前静岡県監査委員・富永久雄)